

小樽港 だより

2026
No.25

発行：小樽港貿易振興協議会 (Otaru Port Sales Promotion Association)



2025年11月小樽～舞鶴便に就航した「けやき」

最新鋭フェリー「けやき」就航、姉妹船「はまなす」が6月デビュー！

(運航会社：新日本海フェリー株式会社)

新日本海フェリー株式会社は、小樽・苫小牧東と秋田・新潟・敦賀・舞鶴を結ぶ大型フェリーを8隻にて運航しております。小樽～舞鶴航路は1970年のすずらん丸に始まり現在まで55年間、延べ8隻のフェリーにより人流と物流を繋いで参りました。

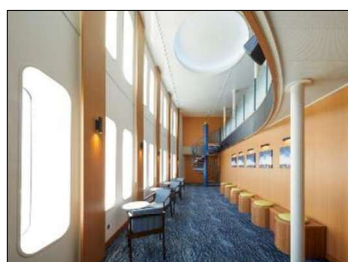
昨年11月には、新造船「けやき」(京都府舞鶴市の市木)が就航し、小樽港では関係者様限定の内覧会を開催し、多くのご来場を賜りました。内覧会当日、船内4F エントランスホールでは、ご乗船頂きましたお客様を弦楽四重奏による演奏でお迎えし、落ち着いた雰囲気の中、客室や共用スペース、バリアフリー設備などを見学頂きました。

新造船「けやき」では船旅を楽しんで頂くために、国内フェリー初導入のプロジェクトマッピングを駆使したイマーシブ(没入型)コンテンツにより、船上で新たな感動を体験できるほか、客室前方に2層吹抜けのフォワードサロン「白竜」など、これまでにない開放感ある船旅を演出しております。

本年6月には、けやきの姉妹船となる船名「はまなす」(北海道の道花)の就航を予定しております。今後も安全で快適な船旅を過ごして頂くため、より良いサービスの向上に努め、お客様のご乗船をお待ちしております。



スクリーンルーム「龍宮」



フォワードサロン「白竜」

小樽港フェリー運航ダイヤ

新潟航路				舞鶴航路			
月～土	小樽港	翌日	毎	日	小樽港	翌日	毎
16時45分発		4時30分着		23時30分発		20時45分着	
	↓	↑		↓	↑		
翌日	新潟港	火～日	翌日	舞鶴港	毎	日	
9時15分着		12時00分発		21時15分着		23時50分発	

※運航ダイヤはやむを得ず変更する場合があります。

小樽港外貿コンテナ取扱個数 過去最高を更新

(運航会社：神原汽船株式会社 小樽港代理店：ノーススタートランスポート株式会社)

神原汽船株式会社が提供する中国コンテナサービスは、中国主要港と日本の地方港を結ぶダイレクトサービスとして、安定した輸送を継続して参りました。昨年に引き続き、自社船隊による定時性の高い運航の維持に努めております。



荷役中の「SUSTAINABLE EARTH」

2025年を振り返りますと、前年から続く自動車関連貨物需要の伸び悩みや、競合他社との運賃競争の激化など、海運業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況にありました。また、中国国内における繊維原料の製造や化学製品の精練品質の向上を背景に、これまで日本で行われていた加工工程が現地完結型へと移行したことなどから、日中間全体の取扱量は微減となっております。

そのような状況の中、小樽港における取扱量は3年連続で前年を上回る結果となりました。これは、近隣港における荷役体制の変化に伴い、一部貨物が小樽港へ切り替わったことに加え、何よりも荷主関係者の皆様からの変わらぬご支援、ならびに港湾関係者各位のご協力によるものと、心より感謝申し上げます。

今後は、当社の基軸である日中航路を堅守しつつ、貨物の伸びが顕著な東南アジア、インド、中東航路にも注力して参ります。提携会社とのネットワークを最大限に活用し、これら地域との接続強化を図ることで、さらなる取扱量の拡大を目指していく考えです。

当社は今後も国際海上輸送を通じ、「地域の活性化と経済発展」に貢献し、地域とともに成長し続ける存在でありたいと考えております。本年も引き続き、小樽港における安定的なサービス提供に尽力してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025 年外貿コンテナ取扱個数 (速報値)			
			単位：TEU
種別	輸出	輸入	合計
実入りコンテナ	349(115.6%)	8,147(112.2%)	8,496(112.2%)
空コンテナ	7,768(112.3%)	8(100.0%)	7,776(112.2%)
取扱個数	8,117(112.4%)	8,155(112.1%)	16,272(112.3%)

※ () 内は、対前年比

【小樽港発着航海日数】		
	輸入	輸出
上海	6日	4日
大連	9日	-
青島	8日	-

※上海トランシップにより東南アジアや中東、欧米サービスを提供しています。

PICK UP!! 港で働く人に聞いた! ~ガントリークレーンオペレーター編~

○ガントリークレーンとは何ですか？

コンテナ船荷役に欠かせない機械で、船からコンテナを積卸す際に使用するクレーンです。

○港湾荷役に携わって何年になりますか？

約30年になります。ガントリークレーンには約13年乗っています。

○ガントリーオペになろうとしたキッカケは？

元々は別の荷役機械に乗りたくて取得した免許でしたが、もっと色々な荷役機械に乗りたと思っていた中、世代交代のタイミングもあり、会社から乗る機会をもらったのがキッカケです。

○ガントリークレーンの「すごい機能」を教えてください。

ガントリーはコンテナ船荷役に特化した機械です。普通のクレーンでは出来ない速さでコンテナの積卸しをすることができます。

○コンテナ船荷役を行う上で、気を付けていることは何ですか？

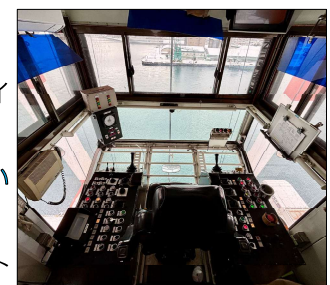
まずは事故が起こらないようにすること。作業の開始前には、全員で朝礼を行い、気を付けるポイントを共有してから、作業を行うようにしています。

○港湾荷役、ガントリークレーンオペに興味がある若い世代に向けてメッセージをお願いします。

港湾荷役は覚えることが多く大変ですが、色々な作業に携われることができます。また、ガントリークレーンは大きくて操作が難しそうに感じるとは思いますが、誰にでもできると思います。ぜひ興味がある方はチャレンジしてみてください！そして、当社は雰囲気良く、チームとしてまとまりがあります。この業界が初めての方も大歓迎ですので、ぜひ一緒に働きましょう！



ノーススタートランスポート(株) 小野 忍さん



ガントリークレーン操縦席

7年ぶりとなる中国本土でのポートセールスを実施

迫俊哉会長（小樽市長）をはじめ、コンテナ航路船社、船舶代理店関係者等からなる訪問団は、2025年10月8日から11日の日程で、小樽港のコンテナ航路寄港地である中国青島市を訪問いたしました。今回の訪問は、2018年度の上海訪問以来、7年ぶりとなる中国本土でのポートセールス活動となります。

青島市は、中国国内でも有数の世界的企業（ハイアール、ハイセンス等）が集積する経済都市であり、紡績、飲料、食品、科学産業などが盛んで、独特の景観と歴史を活かした観光都市としても知られています。小樽港とは2002年のコンテナ航路就航以来、長年にわたり繋がっており、家具、雑貨、家電製品など多様な貨物が小樽港に輸入されています。

現地では、ハイアールをはじめとする製造企業やスーパーマーケット等の視察を通じて、小樽港の貨物増加に向けた具体的な意見交換を実施しました。また、現地日系商社との懇談会を開催し、青島市および山東省における最新の貿易・物流事情についての情報収集を行いました。

さらに、青島市の高副市長と会談し、小樽市と青島市の経済連携強化および今後の貿易・経済交流の拡大に向けて、活発な意見交換が行われました。

青島市は、小樽港コンテナ航路の利用促進および観光振興の両面において非常に高いポテンシャルを秘めております。今回の訪問を通じて構築された現地との関係を礎に、今後の更なる経済的な連携強化と交流拡大に努めてまいります。

引き続き、小樽港の振興発展に皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



青島港コンテナターミナルの説明を受ける迫会長

新潟・群馬の企業訪問と船内観光プロモーションを行いました！

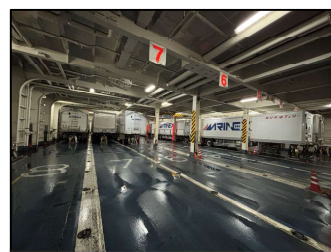
小樽～新潟航路は、旅客、貨物ともに北関東地区からの利用が多いことから、実際に小樽発のフェリーに乗船して群馬県へ赴き、直接物流業者へヒアリングを行いました。あわせて、乗船前にはフェリーを安心して利用してもらうために、どのように船内への車両積込作業が行われているのか見学。さらに、新潟発の帰り便では、みなを起点とした市内観光を推進するため、船内で市内観光プロモーションを実施しました。

車両積込作業では、乗用車からトラック、シャーシなど様々な車種が、小樽港から新潟港行きのフェリーに積み込まれていきました。作業の際は、積込む順番に間違いがないか、甲板内で船や他車と接触がないかなど、事故が起きないように、一度の作業でたくさんの作業員が声を掛け合いながら作業を行っているのを見て、私たちが安心して乗船できるのも、現場で作業を行う方たちのおかげということを改めて強く感じました。

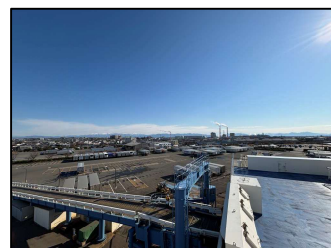
群馬県は、自動車関連企業や、食品関連企業など様々な分野の工場が集積し、高速道路網も充実しているため、物流拠点として機能しており、今回、シートランス群馬営業所や、ロジネットジャパン東日本北関東支店など群馬県を拠点とする物流業者を訪問し、県内の物流事情など具体的な話を伺うことができました。県内の物流業者は高速道路を使って3～4時間で新潟港に到着し、フェリーを使って、飲料や什器、雑貨など北海道向けの荷物を小樽港に運んでいます。フェリーの利用は、働き方改革や、CO2削減を解決する手段として注目されており、物流業者にとってメリットが多くあるとのことでした。

船内での観光プロモーションでは、「出発はお昼だから朝ゆっくりでき、到着は次の日早朝なので、その日に遠方へ観光できるから便利」、「小樽で早朝から開いている飲食店はある?」、「小樽観光してから、札幌観光もしたい」など、若者から年配の方まで様々な方が乗船され、小樽港に到着するのを楽しみにされていました。車と一緒に移動できるフェリーは、旅行スケジュールを自由に組むことができますが、特に小樽発着便は運航ダイヤが良いため、人気が高いことがうかがえました。

小樽港に北海道と本州を繋ぐフェリーが就航していることは、物流と観光において強みであり、更なるフェリー振興を進めてまいります。



積込み作業中の甲板内の様子



小樽港と本州を繋ぐ新潟港

小樽港“三賞受賞”記念イベントが開催されました！

■ 帆船「海王丸」が来航！



「海王丸」一般公開の様子

2024年4月に第3号ふ頭の大型クルーズ船対応岸壁が供用開始され、小樽港に入港する全てのクルーズ船が中心市街地に隣接する同ふ頭に接岸できるようになったことにより、港と街をつなぐ新しい人の流れが生まれています。

第3号ふ頭とその基部周辺では、小樽商工会議所が2011年から「港を巷(ちまた)に」をスローガンとして港ににぎわいを形成する実証実験などを実施しており、小樽市も2014年に再開発計画を策定しました。これにより、国によるふ頭整備とあわせて、小樽観光振興公社による国際インフォメーションセンターの建設など、官民連携による港づくりが進められ、第3号ふ頭とその基部周辺は「みなとオアシス小樽」に登録されました。



「港の歴史 パネル展」の様子

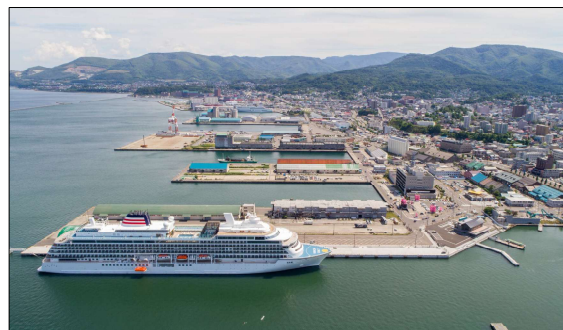
これら一連の動きに対し、小樽港は(一社)日本外航客船協会の「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024 特別賞」、(公社)日本港湾協会の「ポート・オブ・ザ・イヤー」、日本商工会議所の「全国商工会議所きりり輝き観光振興大賞 優秀賞」という、港のにぎわいづくりの取組に対する3つの賞を受賞しました。港湾関連の3つの賞を受賞した記念に、市民や観光客の皆さんが港に集まり、港を楽しみながら、その歴史や背景について学び、小樽港をこれまで以上に身近な場所として感じてもらえるように、小樽市、小樽商工会議所が中心となって昨年8月に「港湾関連三賞受賞記念事業」が開催されました。

イベントでは、第3号ふ頭に接岸された海の貴婦人と称される「帆船海王丸」の一般公開をはじめ、8月1日に供用開始した小樽港観光船ターミナルの多目的ホールを主会場に、地元選出の国会議員などをお招きした「三賞受賞記念式典」、小樽港の歴史や第3号ふ頭整備の歩みを紹介する資料や模型を展示した「港の歴史 パネル展」、*“港の歴史を知って港の新たなにぎわいづくりについて考える”*をテーマとした「記念シンポジウム」が行われました。会場周辺ではキッチンカー広場やマルシェ広場なども開設され、市内外から集まった多くの方々が楽しめるイベントとなりました。

■ 2026年度完成予定！ 第3号ふ頭及び周辺再開発

現在、第3号ふ頭及び周辺再開発は大詰め、イベント広場などの親水空間は2025年度内の完成を目指して整備しています。親水空間の周辺には、2026年度にコンテナハウスのカフェなどがオープンし、小型船だまりの整備も予定していますので、港内で分散している観光船が集約され、乗船客の利便性や快適性が高まるとともに、更なるにぎわい創出が図られることを期待しています。

今後も第3号ふ頭及び周辺地区の整備を進めるとともに、「みなとオアシス小樽」の認知度向上に努め、「みなと観光」がもたらす関連消費を域内経済に波及させるべく、官民で連携しながら取り組みを進めてまいります。



「飛鳥Ⅲ」が寄港した第3号ふ頭上空から望む小樽港

小樽港貿易振興協議会 (OPS)

〒047-0007 小樽市港町5番1号 TEL(0134)23-1107 FAX(0134)23-1109 小樽市産業港湾部港湾室内

【E-mail】 kowan@city.otaru.lg.jp 【ホームページ】 <http://www.city.otaru.lg.jp>

※当協議会に対するご意見・ご要望、また、各種情報等がございましたら、上記までご連絡をお願いいたします。